

## 世界の「AIOIYAMA」プロジェクト意見交換会（第2回）の開催報告

1. 日 時：令和元年6月13日（水）18時10分～20時20分

2. 場 所：西庁舎第8会議室

3. 団 体 名：○相生山の四季を歩く会、ラブリーアース Japan

4. 市出席者：●緑政土木局企画経理課 上杉主査（企画）  
道路維持課 水谷主査（安全対策）  
道路建設課 可児主査（事業調整）  
緑地事業課 岩本課長、中村緑地計画係長

5. 参 加 者：16名

### 6. 当日の次第

(1) 開会のあいさつ

(2) 資料説明

・世界の「AIOIYAMA」プロジェクト意見交換会 主な意見と回答【資料①】

(3) 今後の意見交換会の進め方

(4) 閉会のあいさつ

### 7. 意見交換会 主な意見と回答に関する主なご意見・ご要望

(スケジュールについて)

○ 時間を区切らずに意見交換をすることになっているのはよかった。

○ 時間をかけているうちに、自然が壊れることがないように手立てを考えていく必要はある。

(道路建設について)

○ 市の方針として道路事業廃止としたのは大事なことで前進。

○ 市長が道路より自然を守ることを優先して、道路事業の廃止を決定したと思うので、このことを市民に対してまずは伝えなければならない。

(緑地計画について)

○ 素案の枝葉にとらわれてしまったが、市長表明では自然を大切にするとあったので、そこが1番大切ではないか。

○ 一つの方向性を見つけ出したうえで、素案を作っていくべきなのではないか。

○ 素案の前に、基本的な考え方についてもう少し話し合いたい。

- 素案には、人が相生山緑地に入っていくことしか書かれておらず、どのように守るかが書かれていない。
- 人と自然が共生するというのが一致していなければだめなのではないか。
- 自然に対しての人の感じ方はそれぞれで、今後は、人が手を入れる里山なのか、人の手を入れずに自然遷移させるのかなどテーマを絞って意見交換していく必要があると思う。
- ユニバーサルデザインにしてどうするのか、道路をつくると生態系が変わってしまう。
- 誰もが自然と触れあえる場所があるということは貴重だと考えている。自然を保護してほしいという声がある一方で、多額の費用をかけて用地を取得するので、それを市民に還元する方法を行政としては考えなければいけない。
- 自然をそのまま残すために多額の費用をかけることも必要ではないか。自然を壊してまで、いろいろな施設をつくる必要はない。
- 素案で4つの広場を設定しているのは、現状でゴルフ場やグラウンド、農地などすでに平場となっている場所であり、樹林を切り広げるつもりはない。利用者の声や自然環境を考えながら、緑地のあり方を検討していきたい。
- 公園整備の中身は、遊具などありきではなく、これから考えていくということによいか。
- 市民の方々の利用を考慮せずに検討することは無理なので、特性を生かした緑地のあり方を考える必要がある。
- 里山には広場はない、矛盾するのではないか。そんなに多くの人が避難できる広場でもない、樹林に戻すことはできないのか。
- 基本計画素案の、基本的な考え方3つは等しく重要と考えている。防災性の観点から広場は必要。防災については地域住民から多く要望が出されている。相生山緑地以外のオープンスペースと併せて、相生山緑地でどのくらいの収容能力を持たせるのか考えている。
- 東日本の被災地を見てきたが、仮設住宅を建てる広い場所が必要だと思った。

(長期未整備公園について)

- 用地取得について、移転を拒まれたらどうするのか。
- 相生山緑地は公園として都市計画決定された場所となり、エリアごとに事業に入る時に交渉をさせてもらう。交渉では移転時期などについて意向を聞き取る。市内の公園で強制的な土地収用まで至った例はほとんどない。

(その他)

- 第3回を現地でやることは問題ない。